

## ◎アルチバ静注用, ▼レミフェンタニル静注用 [注]

【重要度】 【一般製剤名】レミフェンタニル塩酸塩 remifentanil hydrochloride 【分類】全身麻酔用鎮痛剤 (麻薬)

【単位】◎2mg・▼5mg/V

【常用量】■導入: 0.5  $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{min}$  の速度で静注 (単独では鎮静効果が弱い) ■維持 0.25  $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{min}$  の速度で静注 (最大 2.0  $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{min}$ ) [肥満患者には理想体重を用いる]

■集中治療における人工呼吸中の鎮痛: 0.025  $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{分}$  で開始, 適宜調整. 5分以上の間隔で 0.1  $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{分}$  までは最大 0.025  $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{分}$  ずつ加速又は減速させ, 0.1  $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{分}$  を超える場合は 25~50%の範囲で加速又は最大 25%の範囲で減速させるが, 投与速度の上限は 0.5  $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{分}$ . 投与終了時は 10分以上の間隔で最大 25%ずつ減速させ 0.025  $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{分}$  を目安として投与終了

【用法】生食もしくは 5%ブドウ糖注射液で 100  $\mu\text{g}/\text{mL}$  (20~250  $\mu\text{g}/\text{mL}$ ) に調製し, 持続静注 (通常 2mL を 10 倍希釈してシリンジポンプで投与)

【透析患者への投与方法】常用量 (5)

統計学的に有意な CL の低下, 半減期の延長が認められるが, Vd の変化で説明されるかもしれず, 使用に関する影響は小さい (Dahaba AA, et al: Can J Anaesth. 2002 PMID: 11927475)

【PD】局麻メピバカインとレミフェンタニルにて PD カテーテル挿入術施行 (Jabbour E, et al: PLoS One 2021 PMID: 34735524)

PD カテーテル挿入術にデクスメトミジンとレミフェンタニルで実施 (Yang Q, et al: Ren Fail 2023 PMID: 37994433)

【保存期 CKD 患者への投与方法】常用量 (5)

未変化体 PK は腎機能低下の影響を受けず, 主代謝物 GR90291 は蓄積するが薬効には影響しない (Hoke JF, et al: Anesthesiology 1997 PMID: 9316957)

代謝物のレミフェンタニル酸濃度は上昇するが薬効には影響しない (Pitsiu M, et al: Br J Anaesth 2004 PMID: 14766712)

【特徴】超短時間作用型オピオイド鎮痛剤.  $\mu$  受容体に高い親和性を有する (IC50 値:  $\mu$  2.6nM,  $\sigma$  66nM,  $\kappa$  6100nM)  $\mu$  受容体への EC50 はレミフェンタニル 2.4nM, フェンタニル 1.8nM とほぼ同程度の強い親和性.

【主な副作用・毒性】筋硬直, 呼吸抑制, 血圧低下, 徐脈, 不全収縮, 心停止, ショック, アナフィラキシーなど

【代謝】エステラーゼによりすみやかに脱メチル体へ代謝される (1) 代謝物の活性は低い (1) 偽性コリンエステラーゼは関与しない (1)

【排泄】尿中未変化体排泄率 1% (1) 脱メチル化体として 80%が尿中排泄 (投与後 24hr) (1) 【CL】健常人: 40~57mL/min/kg, 腎障害者: 33~36mL/min/kg (1)

【t1/2】4分 (1) 腎機能障害時: 4.5~5.6分 (1)

【蛋白結合率】71~72% [Alb 14~16%, AAG 38~47%] (1)

【Vd】Vss 0.18~0.38L/kg (1) 腎障害者 0.23~0.28L/kg (1)

【MW】412.91

【透析性】脱メチル化体は 25~35%除去される (1) 消失が速いため透析性は問題にならない (5)

【O/W 係数】17.9 (1-オクタノール/buffer/pH7.3)

【体内動態】肥満患者では総体重ではなく, 理想体重で投与量を決定するのが better (Egan TD, et al: Anesthesiology 1998 PMID: 9743391)

【相互作用】中枢神経抑制剤, 心収縮能抑制剤と併用注意 (1)

【備考】添加物にグリシンを含有するため, 硬膜外およびくも膜下への投与は禁忌 (1)

【更新日】20241010

※正確な情報を掲載するように努力していますが, その正確性, 完全性, 適切性についていかなる責任も負わず, いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし, それらを利用した結果, 直接または間接的に生じた一切の問題について, 当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は, 日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。